

ICTニュース10月号



院内感染対策委員会
2016年10月

トピックス！RSウイルス感染症 報告数が上昇中

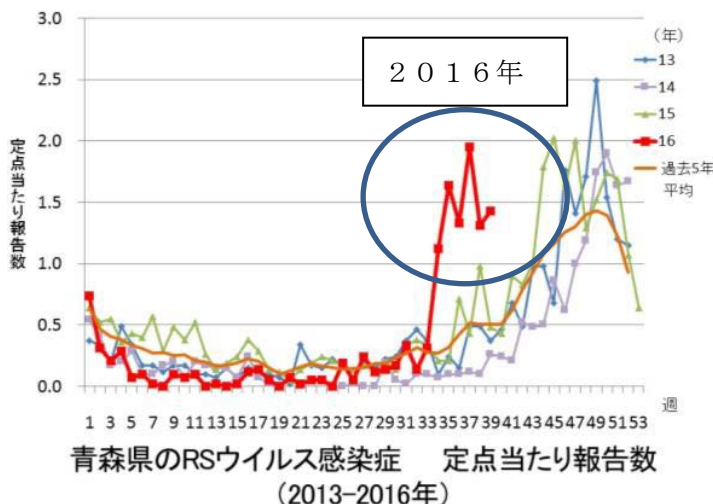
RSウイルス感染症は、RSウイルス感染による呼吸器の感染症です。感染してから2～8日、典型的には4～6日間の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁などの症状が数日続きます。2歳までにほぼ100%の児がRSウイルスの初期感染を受けるといわれています。乳児期早期（生後数週間～数カ月間）にRSウイルスに初感染した場合は細気管支炎、肺炎など重症化することがあるので注意が必要です。

全国的には、夏期は報告数が少ない状態が続いていましたが、2011年以降、7月頃から報告数の増加が見られ、今年も第33週（8/15～8/21）以降増加が続き、38週には僅かに減少したものの報告数が多い状態が続いています。

青森県内でも、第33週から増加傾向で推移し、第38週には減少しましたが、第39週には再び増加したため、今後の発生動向に注意が必要です（図）。

RSウイルス感染症は、感染している人の咳やくしゃみのしぶきを吸い込んだり、感染している人やウイルスが付いている物品に接触することによって感染します。

予防のためには、0～1歳児に接するときはマスクを着用し、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコール等で消毒し、流水・石鹸による手洗い又はアルコール製剤による手指衛生を励行しましょう。



手指衛生の適応時間と細菌汚染の減少

